

平成 20 年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 若手研究(スタートアップ) 4. 研究期間 平成 19年度 ~ 平成 20年度
5. 課題番号 1 9 8 2 0 0 0 9
6. 研究課題名 映画におけるデジタル映像技術の応用 創造的価値と歴史的 position づけについて
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 4 3 6 7 0 6	フリガナ イシバシ,キヨミ 石橋,今日美	メディア学部	助教

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

研究初年度、初期映画からハリウッド古典作品、最新デジタル視覚効果を多用した作品を可能な限り見た上で、進めていった各作品の分類・分析をもとに、今年度は映画と写真、絵画など、その他の表象芸術、映画誕生以前の視覚装置などとの関連性を探求していった。映画以前のスペクタクルであったパノラマ、ジオラマと今日の映画のスペクタクル性のみ注目した両者の類似性の指摘は、すでになされてきた。しかし、パリ国立図書館にて、それらの視覚装置が公開された当時の文献資料を調査した結果、見物客は描かれた光景にまつわる詳細なストーリーと、視線をガイドする矢印が記されたパンフレットを手にしていたことが判明した。つまり最新デジタル映像を駆使した映画作品が、「見せること」(スペクタクル性)と「物語ること」(ストーリー性)の危うい均衡上に成立しているように、映画以前の視覚装置も「見せること」だけで成立していたのではなく、物語性によって見物客をイリュージョンの世界に引き込んでいったことが分かる。また米映画研究者 Tom Gunning が指摘する 20 世紀初頭、説話的機能が未発達で視覚的にインパクトの強いアクションを披瀝した「アトラクションの映画」と現代映画の観客を作品世界に取り込もうとするアプローチには、類似性が確認された。技術的に「新しい」イメージによる映画作品と、映画誕生以前の視覚装置や古典的フィルムの間には作品と観客との関係において、時代を超えた共通点が見出される。

現在最も身近なデジタル映像技術のひとつである、携帯電話のビデオ機能による映画的創造性を探る試みとして制作した、115 分の長編フィクション作品『SPYDER』は、第 38 回ロッテルダム国際映画祭に正式招待され、映画の新たなあり方として評価された。

成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4判縦長横書 1 枚)を添付すること。

10. キーワード

- (1) 映画 (2) 美学 (3) デジタル映像
- (4) メディア (5) 表象文化 (6)
- (7) (8) (裏面に続く)

11. 研究発表（平成20年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（ 1 ）件

著者名	論文標題				
石橋今日美	映画の現実の創造、痕跡の捏造 映画が経験した三つの革命をめぐって				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
中央評論	無	264	2	008	pp. 29-36.

著者名	論文標題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁

著者名	論文標題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁

〔学会発表〕 計（ 1 ）件

発表者名	発表標題		
石橋今日美	投影の揺らぎ、あるいは多重化するスクリーン内スクリーン		
学会等名	発表年月日	発表場所	
表象文化論学会	2008年11月15日	東大駒場キャンパス	

〔図書〕 計（ 0 ）件

著者名	出版社			
書名			発行年	総ページ数

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

<http://repre.org/repre/vol8/meeting03/panel02.html>